

2. 札幌市における長期入院心身障害乳幼児の実態調査

氏家 武* 岡田 喜篤*

目的

小児科領域においては、いわゆるグレーゾンを含めた、重度重複心身障害としての障害が固定する以前に、すでに長期に渡り一般病院において心身障害の治療を受けている乳幼児が多数存在していることが知られている。また、これらの乳幼児の障害は非常に複雑かつ最重度であるとも言われている。ところで、このような乳幼児は、その治療環境が一般病院であることや、第1線の医療スタッフが重度重複心身障害児の療育について不慣れであることなどから、その療育や社会福祉状況は決して満足したものではないことが推測される。一方、重度重複心身障害児の専門療育機関である重症心身障害児施設(以下重症児施設と略す)は、現時点ではその医療水準が低い場合が多く、このような最重度の心身障害を持つ乳幼児の入院治療を引き受けることが困難な状況にある。そのために、このような重度重複心身障害の診断(判定)を受ける以前に、すでに長期に渡り一般病院で入院治療を受けている心身障害乳幼児の療育、社会福祉状況は極めて不充分であり、また、第1線の医療機関と重症児施設の連携も極めて乏しいのではないかと思われる。

この研究は、札幌市及び近郊都市内の主要病院で、心身障害のためにすでに1月以上に渡り

入院治療を受け続けている乳幼児及び小児の実態調査を行うことにより、このような乳幼児及び小児の医療、療育、社会福祉状況について明らかにすることを目的とした。

方法

1. 第1次調査

札幌市及び近郊都市内の主要病院(小児科、脳神経外科、胸部外科、NICU、救急部、小児外科)を対象に、1月以上の長期に渡って入院治療を受けている5歳未満の心身障害乳幼児数、及び5歳以上15歳未満の心身障害小児数や病院あるいは病棟全体の医療看護スタッフの内容や長期入院障害児の医療・療育体制について、アンケートを用いて調査する。

2. 第2次調査

第1次調査によって明かとなった長期入院心身障害乳幼児及び小児について、その医学的状態(疾患名、在院期間、障害の程度、看護状況など)と療育状況(重症児あるいは障害児として適切な療育を受けているか、療育手帳の有無、社会福祉の状況など)について、個別に訪問し、あるいはアンケートを用いて調査する。

ただし、ここでは、1月以上に渡って入院治療を受けている乳幼児で、将来、重度重複心身障害をきたすことが予見されるケースや、すで

*札幌あゆみの園

に重度重複心身障害が固定しているケースを、長期入院心身障害乳幼児と呼ぶ。また、重度重複心身障害を以下のように定義する。重度の精神遅滞及び重度の肢体不自由が重複している状態で、その障害が胎生期から発達期までに生じたものに限るが、その障害の原因は全く問わない。また、重度精神遅滞とは、IQが35以下か推定その程度で、重度肢体不自由とは、四肢の運動機能が著しい不全状態にあるものをいう。

結 果

(平成3年2月28日現在、第1次調査結果の中間報告)

平成3年2月に「調査協力依頼文」と「札幌市における長期入院心身障害乳幼児の実態調査票」(資料-1参照)を札幌市、小樽市、江別市、及び恵庭市内の小児科、胸部外科、脳神経外科、小児外科を標榜する全ての病院の病院長あるいは病棟医長、合計106名に郵送した。回答した調査票は、同封の封筒で返送してもらうようにした。

1. アンケート回収状況

2月28日時点でのアンケート回収数は45通で、回収率は42.5%である。札幌市内では37カ所の病院あるいは病棟から返答があり、小樽市内は4カ所、江別市内は2カ所、恵庭市内も2カ所から返答があった。診療科目別では、小児科が17(9)、脳神経外科が11(3)、胸部外科が5(2)の順で、小児科が最も多かった。ただし、括弧内の数字は他科との混合病棟の場合の数である。

2. 長期心身障害児の状況

これらの45カ所の病院あるいは病棟のうち、長期入院心身障害乳幼児(5歳未満)あるいは心身障害児(5歳以上15歳未満)が入院していたの

は7カ所であり、診療科目別では全て小児科単独病棟あるいは小児科と他科との混合病棟であった。長期入院心身障害乳幼児数は33名で、長期心身障害児数は21名であり、合計では54名であった。これらのうち、乳幼児では19名(58%)が、5歳以上の中では6名(28%)が小樽市内にある道立小児保健センターの乳児病棟あるいは乳児病棟に入院していた。その他は全て札幌市内の病院であり、公立病院が6カ所、私立病院が2カ所であった。また、1カ所の私立病院が札幌市の障害児者の緊急一時保護事業の依託をうけていた。

3. 長期入院心身障害児の療育状況

病棟内あるいは院内に、医療看護スタッフとは別に専門スタッフを置いて、心身障害児の療育を担当していると回答した病院はなかったが、専門スタッフはいないが、病棟スタッフが療育的な働きかけを行っているという回答は5件あった。また、障害児施設との連携で療育的働きかけを行っていると回答していた病院が2カ所あった。しかし、15カ所の病院では、療育的な働きかけはほとんどあるいは全く行っていないと回答し、その他で事例なしという回答が10、無回答が12あった。

4. 長期入院心身障害児の受入れと転送状況

他院から積極的に障害児を受入れている病院はなかったが、ケースによっては受入れことがあるという病院は7カ所あった。また、その他の受入れとしては、緊急一時保護事業として受入れているのが1カ所、外科治療に限り受入れるというのが1カ所であった。21カ所病院では、ほとんどあるいは全く受入れていないという回答であり、無回答が7あった。

他病院へは移送せず、病棟内でケアしている

と回答した病院はなかった。できるだけ病棟内でケアしているが、ケースによっては他病院へ移送することがあるという回答が12、できるだけ家庭復帰に努めているという回答が5ヵ所あった。その他の回答が12、無回答が13件あった。

5. 家族のための相談窓口

専門スタッフが行っている病院は3ヵ所、その都度病棟スタッフが応じている病院が7ヵ所あった。そのようなサービスを行っていないという病院が20、その他が5、無回答が8あった。

ま と め

この調査は2年計画であり、現在、第1次調査を行っているところである。従って、今回の結果は中間報告に過ぎず、調査結果の詳細な分析と考察は最終的な結果を得てから行わなければならない。

第1次調査のアンケート回収は予想よりも順調に進んでいるが、後日アンケート回答の催促依頼を行う予定である。

また、同時に、今回の調査で判明した長期入院心身障害乳幼児と障害児のより詳細な医療状況と療育状況についての調査を、第2次調査として早急に開始する予定である。

〔資料-1〕

札幌市における長期入院心身障害乳幼児の実態調査票

これは、札幌市内及び近郊都市の主要病院で1月以上に渡って入院治療を受けている乳幼児で、将来、重度重複心身障害をきたすことが予見されるケースや、すでに重度重複心身障害が固定しているケース（これらのようなケースを、長期入院心身障害乳幼児と略します）の医療及び療育状況に関するアンケート調査です。

空欄に適当な事項を記入するか、当てはまる番号に○印を付けて下さい。ご協力を宜しくお願い申し上げます。

尚、ここでは、「重度重複心身障害」を以下のように定義します。

重度の精神薄弱(精神遅滞)及び重度の肢体不自由が重複している状態で、その障害が胎生期から発達期までに生じたものに限るが、その障害の原因は全く問わない。また、重度精神薄弱とは、IQが50以下を推定その程度で、重度肢体不自由とは、四肢の運動機能が著しい不全状態にあるものをいう。

1. 病院名 ()

2. 病棟診療科名 a. 小児科 b. 脳神経外科 c. 救急部 d. NICU e. 心臓血管外科
f. 小児外科 g. その他()

3. 病棟内総ベッド数 ()床

4. 病棟専属スタッフと病棟外スタッフについて、各職種の人数を記入してください。

	棟専属	院 内		棟専属	院 内
常勤医師(非常勤)			医療ソシャルワーカー		
看護婦(正看准看含む)		/	保健婦		
理学療法士			保母		
作業療法士			教師(訪問)		
言語療法士			看護助手		/
臨床心理士			その他()		

5. 現時点での病棟入院患者総数 ()名

6. 現時点での5歳未満の1月以上の長期入院心身障害乳幼児数 ()名

7. 現時点での5歳以上15歳未満の1月以上の長期入院心身障害児数 ()名

8. 長期入院心身障害児の療育は行われていますか。

- a. 病棟内あるいは院内に、医療看護スタッフとは別に専門スタッフがいて、心身障害児の療育を担当している。
- b. 専門スタッフはいないが、病棟スタッフが医療看護だけではなく、療育的な働きかけも行っている。
- c. 心身障害児に対して、医療看護以外には療育的働きかけはほとんどあるいは全く行っていない。
- d. 障害児施設と連携し、そこから専門スタッフがきて療育を直接担当したり、病棟スタッフがアドバイスを受けながら療育的な働きかけも行っている。
- e. その他()

9. 長期入院心身障害児を他病院から受け入れていますか。

- a. 積極的に受け入れている。
- b. ケースによっては、受け入れことがある。
- c. 他病院からは全くあるいはほとんど受け入れていない。
- d. その他()

10. 長期入院心身障害児を他病院へ移送することがありますか。

- a. 他病院へは移送せず、病棟内でケアしている。
- b. 入院が長期化する前に他病院へ移送することが多い。
(主な移送先病院名:)
- c. できるだけ病棟内でケアしているが、ケースによっては他病院へ移送することがある。
- d. できるだけ家庭復帰できるように努めている。
- e. その他()

11. 長期入院心身障害児の家族のための相談窓口がありますか。

- a. 専門スタッフが行っている。
- b. 専門スタッフはいないが、その都度病棟スタッフが応じている。
- c. そのようなサービスはほとんどあるいは全くない。
- d. その他()

12. 障害児者の緊急一次保護事業の依託を受けていますか。

- a. 受けている。
- b. 受けていない。
- c. その他()

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文書認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります ↓

目的

小児科領域においては、いわゆるグレーゾーンを含めた、重度重複心身障害としての障害が固定する以前に、すでに長期に渡り一般病院において心身障害の治療を受けている乳幼児が多数存在していることが知られている。また、これらの乳幼児の障害は非常に複雑かつ最重度であるとも言われている。ところで、このような乳幼児は、その治療環境が一般病院であることや、第1線の医療スタッフが重度重複心身障害児の療育について不慣れであることなどから、その療育や社会福祉状況は決して満足したものではないことが推測される。一方、重度重複心身障害児の専門療育機関である重症心身障害児施設(以下重症児施設と略す)は、現時点ではその医療水準が低い場合が多く、このような最重度の心身障害を持つ乳幼児の入院治療を引き受けすることが困難な状況にある。そのために、このような重度重複心身障害の診断(判定)を受ける前に、すでに長期に渡り一般病院で入院治療を受けている心身障害乳幼児の療育、社会福祉状況は極めて不充分であり、また、第1線の医療機関と重症児施設の連携も極めて乏しいのではないかと思われる。

この研究は、札幌市及び近郊都市内の主要病院で、心身障害のためにすでに1月以上に渡り入院治療を受け続けている乳幼児及び小児の実態調査を行うことにより、このような乳幼児及び小児の医療、療育、社会福祉状況について明らかにすることを目的とした。